

特集

小説『安曇野』の魅力を探る

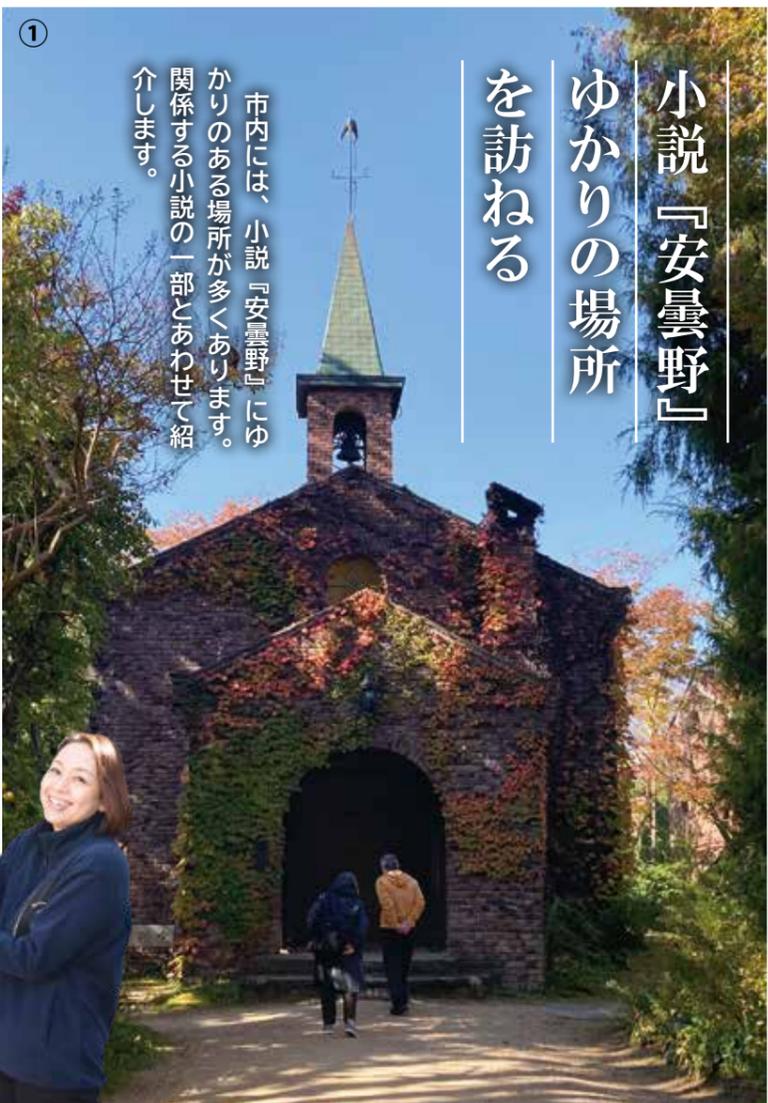
碌山美術館 ―彫刻「女」

碌山美術館では、日本近代彫刻の扉を開いた荻原守衛（碌山）の作品と資料を保存・公開しています。碌山館で展示している「女」は日本近代彫刻の最高傑作とされ、相馬黒光に似ていると言われています。

―小説『安曇野』より

台上の粘土にかぶせておいた覆ひを一枚一枚はぎとつて、「女」が全裸をさらすと、シスターは釘づけになって、立ちすくんだまま、ふき出す涙で顔がびしょ濡れになった。

〔『安曇野』第二部 その二五より引用 ※シスターは相馬黒光の一人〕



小説『安曇野』ゆかりの場所を訪ねる

市内には、小説『安曇野』にゆかりのある場所が多くあります。関係する小説の一部とあわせて紹介します。

①碌山美術館②彫刻「女」（碌山美術館）③研成義塾跡記念碑④相馬黒光のオルガン（井口喜源治記念館）⑤白井吉見文学館

- 碌山美術館 ☎ 82・2094 開館時間 9:00～16:10
- 井口喜源治記念館 ☎ 82・5570 開館時間 9:00～17:00
- 白井吉見文学館 ☎ 71・5123 開館時間 9:00～17:00

ゆかりの場所へのアクセス・観光案内は市観光情報センターで！ ☎ 82・9363

井口喜源治記念館 ―相馬黒光のオルガン

井口喜源治記念館では、私塾「研成義塾」を創設した井口喜源治の手紙や、研成義塾で使用した教科書などを展示しています。相馬黒光が嫁入り道具として持参したオルガンは、相馬夫妻の長女俊子の研成義塾入学記念に寄贈を受け、今も見ることが出来ます。

研成義塾跡

私塾「研成義塾」は明治31年、当時の穂高村矢原（現在の穂高の集会所を借りて創立されました。その後、この地に新校舎が建設され明治34年に移転しました。現在は跡地を示す記念碑が残っています。

―小説『安曇野』より

新校舎の敷地は、早くからきまっていた。糸魚川街道、三枚橋の馬車の立て場から、水車のかかった用水堰に沿う田んぼ道を十数歩踏み入ったところ、稲田三百坪がそれに当てられていた。

〔『安曇野』第一部 その一六より引用〕

白井吉見文学館

小説『安曇野』の作者 白井吉見の業績を紹介しています。小説『安曇野』の原稿約5600枚を保管しています。

『安曇野』を原作としたNHK大河ドラマ化に向けて 取り組みスタート！

図政策経営課 ☎ 71・2401

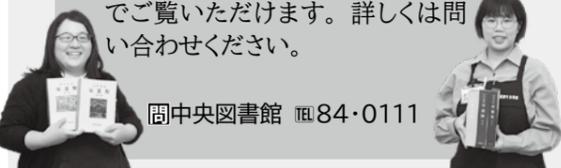


市では、小説『安曇野』を原作としたNHK大河ドラマ化に向けた取り組みを始めました。その第1弾として、小説にゆかりのある皆さんと太田寛市長との懇談会を都内と市内で2回開催しました。第1回懇談会は、9月30日（金）に東京都新宿区の新宿中村屋ビルで開催。中村屋の皆さんのほか、小説に登場する洋画家中村彝のアトリエ記念館や、荻原守衛（碌山）とも親交のあった書家中村不折に關係する博物館の担当者が出席しました。今後、各関係者が連携するとともに、定期的な情報交換を重ねていくことを確認しました。株式会社中村屋社長の島田裕之さんは、「壮大でロマンあふれる取り組み。可能な限りお手伝いさせていただきます」と『安曇野』の大河ドラマ化に向けたエールを送りました。

小説『安曇野』は図書館で！

小説『安曇野』は現在、絶版となっているため、一般書店では、購入できません。市内図書館や国会図書館個人向けデジタル化資料送信サービスでご覧いただけます。詳しくは問い合わせください。

図中央図書館 ☎ 84・0111



ゆかりの先人たちの生涯を通じて 安曇野の魅力を全国に

「安曇野」の名前を全国へ広め、定着させた小説『安曇野』は、地域にとって大切な財産であると思っています。この度の小説にゆかりのある皆さまとの懇談会を通じて、地域の先人たちの生き方を次世代に継承していくことが大切だということを再認識しました。小説を原作としたNHK大河ドラマ化に向けた取り組みを通じて、安曇野の更なる知名度向上や魅力発信、そして、なにより市民の皆様が地域に愛着を持つきっかけへとつながっていきたく考えています。ハードルの高い目標ではありますが、市民の皆さまとともに地道な活動を粘り強く続けていきたく思います。



安曇野市長 太田 寛